

秋に美しく黄葉することで知られるイタヤカエデ。長さ 5-10 cmの大きな葉が水平によく繁って、雨が降っても雨宿り出来る板で葺いた屋根に例えて「板屋カエデ」と呼ばれるようになりました。「カエデ」は葉の形をカエルの手に見立てたことが語源。イタヤカエデには変種のオニイタヤやアカイタヤなどがありますが、これらを総称してイタヤカエデと呼んでいます。多くのカエデ類が葉縁に鋸歯があるのに対し、イタヤカエデは全縁なので見分けやすいです。

芽吹きは4月下旬頃、超合金ロボットのような冬芽が、幾つものパーツに割れて、そのひとつひとつから黄色い花と葉っぱと一緒に出てきます。芽吹いていく様はダイナミックでほれほれします。ちょうど県民の森に数百本植栽されているオオヤマザクラが満開の時期、その傍らでひっそりと咲く可憐な姿は、あまり気付かれることがないのですが、春を代表する美しい木の花です。初夏には若い実が出来ます。秋に茶色く熟して乾燥すると、ヘリコプターの羽のような翼を持った実は風に乘って飛んでいきます。

木材として流通しているカエデはほとんどがイタヤカエデ。木肌は白く、きめ細かくて滑らかな美しい材で、固くて弾力があるため、良材として評価が高く、家具や楽器、スキー板、フローリングなどに利用されてきました。また、東北から北海道では春先に甘い樹液を採取して、樹液を煮詰めてシロップやカエデ糖をつくり、貴重な甘味料としていました。

国内各所に植栽され、七滝登山道周辺でもよく見られるイタヤカエデ、この春はぜひ黄色い可憐な花を探してみてください。

冬芽 2/23



冬芽が開く 4/25



花 4/27



新緑 5/25



若い実 6/11



熟した実 10/27



黄葉 10/31